

初めて走った無人電車「神戸新交通ポートライナー」



コンピューター制御で電車の運行全てが自動化され「無人運転」で走る電車を新交通システムと呼ぶが、この新交通システムの先駆けが、三宮とポートアイランドを結ぶ「ポートライナー」である。今ではこれ以外にもいくつかこのシステムを導入した電車が存在するが、日本で最初の無人運転を行った電車はこの「ポートライナー」に他ならない。

神戸市最初の人工島・ポートアイランドへの交通手段として開発が進められてきたポートライナーだが、実は、日本最初の無人運転という栄光の座を手に入れるには、紆余曲折があった。というのも、大阪市もほぼ同じ時期に、大阪南港へのアクセスとして新交通システムの開発に着手していたからだ。大阪は、「ニュートラム」という愛称をすでに決め、着々と開業準備に向け進んでいたのだが、神戸はポートアイランド完成を記念したポートピア'81という地方博覧会を計画していたため、それに照準をあて、新交通システムの開業時期を設定した。大阪市も「日本初」という名声を手に入れるべく神戸市と開業時期をめぐってデッドヒートが繰り広げられたのだが、最終的には神戸が先に開業することになった。

こうして、1981（昭和56）年2月5日、新交通システム「ポートライナー」は開業することになったのである。ただ、開業からしばらくは、混乱が生じては行けないと乗務員を乗せていたが、これも運転するわけではないので「添乗員」と呼んでいた。現在では、無人運転に対する違和感は全くないといってよく、これに乗る乗客も運転士がないのがあたりまえといった感じであろう。

2006（平成18）年2月16日の神戸空港の開港に先立って、2月2日に神戸空港駅までの延伸・複線化を行い、現在の路線となった。